

## 働く場を移動した看護師の戦術

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2020-12-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 恵子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032628">https://doi.org/10.20780/00032628</a>

氏名：岡本 恵子  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲 第41号  
学位授与年月日：令和2年3月23日  
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当  
論文題目：働く場を移動した看護師の戦術

論文審査委員：主査 教授 池田 真理  
副査 教授 田中 美恵子  
副査 教授 長江 弘子

## 論文内容の要旨

### I. 背景と目的

日本国内の多数を占める中小規模の病院では既卒看護師の採用が中心となっている。既卒看護師が新しい職場で抱える困難の背景には、即戦力という漠然とした職場の期待や「もののやり方」といった組織の文化が影響していると考えられる。本研究では、中小規模に移動をした既卒看護師が新しい職場で自分の知識や技術をいかに活かしながら働き続けているのか、Certeauの戦術の視点でそのプロセスを明らかにすることを目指した。

### II. 研究方法

中小規模病院に転職した既卒看護師12名に半構造化面接を行い、収集したデータは修正版グラウンデッドセオリーアプローチにて分析を行った。

### III. 結果

24の概念と6つのカテゴリー【根拠にこだわる実践の獲得経験】【現実への直面とモチベーションの低下】【根拠のない実践に切り込む】【衝突を避けギャップをひとまず受け入れる】【ソトの知識を持ち込むタイミングを図る】【「このやり方」への葛藤と逸脱】が抽出された。働く場を移動した看護師は、これら6つのカテゴリー全てをたどらずに、直線型・戦術喪失・タイミング待機・逸脱選択という4つのパターンを描きながら、自分たちの知識や技術を持ち込むプロセスを示した。また、4つのパターンのうち【根拠のない実践に切り込む】ためには、他者に丁寧に説明する経験、変化の受け入れに寛容な職場環境、そして看護管理者を巻き込んでいく等の条件が必要であることが示された。

### IV. 考察

本研究では、働く場を移動する看護師は新しい職場で直面するギャップや課題に対し「根拠」を用いて自分たちの知識や技術を持ち込もうとし、この「根拠」は、新人時代に受けた根拠に基づく学びから得られたものだった。その「根拠」はエビデンスと職場の文化から影響を受けていたが、「このやり方」といった曖昧なものではなく説明可能であった。「根拠」とともに持ち込む戦術とし

での4つのパターンのプロセスを通して、以前の職場の実践を次の職場に仲介する役割（ブローカー）を担う可能性を示した。しかし、戦術喪失パターンに陥る看護師のように、職場の実践に違和感がなくなってしまうと自分の知識や技術を持ち込む機会を喪失している可能性もある。

また、ブローカーとしての役割が知識や技術の仲介者として病棟の質を変える存在になる可能性も示唆された。この結果は、看護管理者が働く場を移動した看護師を職場の質を向上や変化をもたらす人的資源として、また看護師の定着対策への新たな視点として提供できたと考える。本研究において働く場を移動する看護師がたどるプロセスには4つのパターンという複雑さがあること、知識や技術をブローカリングする役割を持っていることが示唆された。看護師が移動をすることは、予想を超えた困難に直面することは避けられず、専門職として自力で学び続ける強さも求められるのである。

### 論文審査結果の要旨

本論文は中小規模の病院へ移動した看護師の新たな職場での適応プロセスを、戦術という概念に立脚してとらえることで明らかにした研究である。移動した看護師の適応プロセスを明らかにすることで、その看護師の活用を考え看護の質の向上に寄与できる可能性をも見出し、看護管理学的に実践的な意義のある論文であった。

本人は、修士課程において哲学、心理学を修めており、そうした知識背景が今回の研究の背景に活用されていた。看護職という専門職を社会の中で大きくとらえ、多領域の思想を抑えた上で、看護界において意義のある研究成果を今後も作り出してほしい。

結果的に、研究対象者の全員が、新人看護師の際には急性期病院からスタートし、現在は慢性期を扱う医療施設にいる看護師となっていた。そうした研究対象の限界はあるものの、専門職である看護師が今後働く場を移動する状況が増加していくと考えられる中、当事者である看護師にとっても、彼らを採用・活用する看護管理者にとっても意義のある研究成果が得られており、博士論文として適当と思われる。

以上、本学位申請論文審査の結果、合格とする。